

次の文章を読んだうえで、「腑ぶに落ちる」とはどのようなことか、自分の考えを八〇〇字以内で述べなさい。

腑ぶに落ちる

分かったのかと私が言う

分かったと言う

腑ぶに落ちたかと念を押すと

腑ぶに落ちましたと答える

腑ぶってどこだと私が問うと

どこかこのあたりと下腹を指す

そこには頭も心もないから

落ちてきたのは言葉じゃない

それじゃいつたい何なんだ

分かりませんと当人は

さつき泣きじゃくったせいか

つき物が落ちたみたいに涼しい顔

谷川俊太郎 『こころ』より

出典情報：谷川俊太郎 『こころ』 朝日新聞出版、2013年、112ページ

設問. 次の課題文を読み、内容を踏まえた上で、「他者といること」について、あなたなりの考えを800字以内で述べてください。

さいしょにはただふたりでいる世界がある。たとえば、ふたりでいっしょに鳥を見ているような。それが、よく似たふたりの場合も、まったく違うふたりの場合もあるだろう。そこから、わかりあう方向や愛しあう方向に進むこともある。また、わかりあえず、愛しあえないから、いっしょにいられなくなったり、なぐりあう方向に進むこともある。しかし、わかりあえず、愛しあえないときも、なぐりあわずに、ただいっしょにいることもできる。質問しあい、説明しあい、話しあうこともできる。そうしたやり方をできるだけ開いておこう。わかりあうこととなぐりあうことの往復ではなく、同じだからわかりあう、違うからなぐりあうのではもちろんなくて、よく似た他者とも違う他者ともいっしょにいる技法を(もちろんわかりあうことも含めて・でもわかりあうことに囚われずに)開けるだけ開いておこう。そこにはたくさんの居心地が悪い世界があるかもしれないが、どうやらそもそも他者といることとはそういうことなのだ。そして、それができることは、他者といることを、もっとずっとゆたかなものにしてくれるように、私は思う。

出典：「他者といる技法」 奥村隆 ちくま学芸文庫 筑摩書房

人文学部 こども発達学科 小論文問題

以下の図 1～3 は、幼児の読書とデジタルメディア利用についての保護者調査を行った結果である。

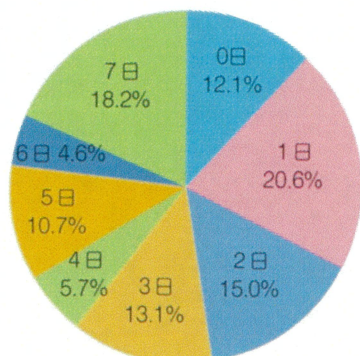


図 1 家庭で週に何日子どもと大人と一緒に絵本や本を読んでいるか (電子書籍含む)

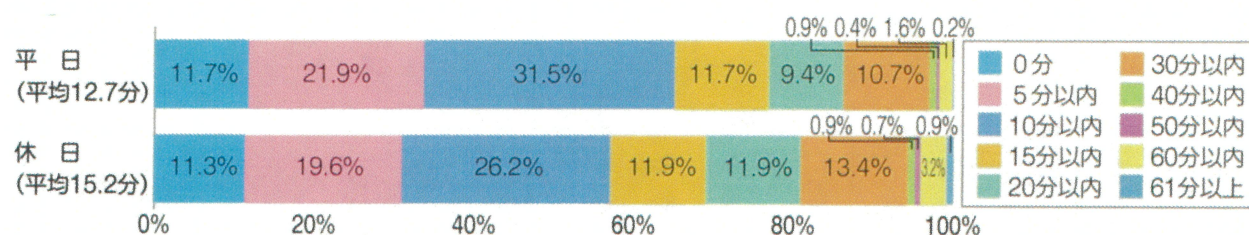


図 2 子どもは平均して 1 日何分程度、絵本や本を読んでいるか (電子書籍含む)

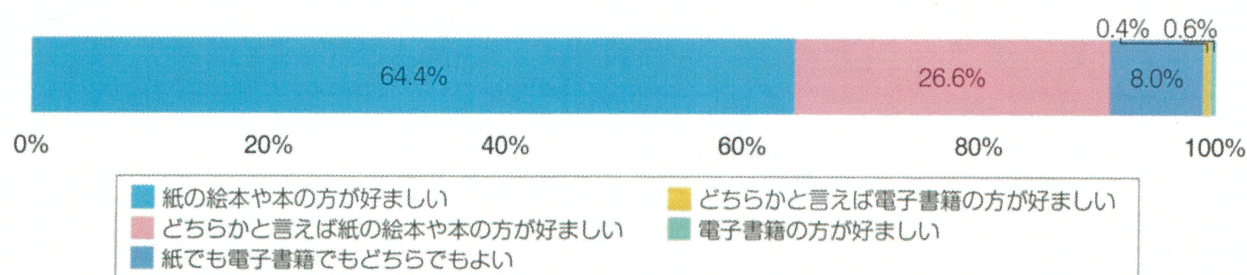


図 3 子どもが絵本や本を読む際、紙と電子書籍のどちらが好ましいと思うか

出典：東京大学×ポプラ社共同研究「子どもと絵本・本に関する研究」プロジェクト (2022)

調査結果ダイジェスト 令和の子どもと絵本・本環境 p.5

問 1. 図 1・2・3 から読み取れる、家庭での読書習慣と保護者の意識について述べなさい (200 字以内)。

問 2. あなた自身の“乳幼児期の読書経験”について具体的なエピソードを挙げ、さらに、家庭での乳幼児期の読書経験がどのようにあるべきか自身の考えを述べなさい (600 字以内)。